

# 温故知新 昭和40年代に学ぶ(区民投稿)



携帯電話、インターネットやTVゲーム、深夜営業の店もまだ少なかった昭和40年代。当時の日常生活には不便ゆえの苦労や工夫など現代の生活に役立つヒント、学ぶべきことも数多くあったことだろう。

杉並区に初のケンタッキーフライドチキンができたのは荻窪店で昭和47年(1972年)4月28日。またコンビニエンスストアができたのが昭和50年(1975年)。まだまだ杉並区も、どこかのんびりした住宅地であったのだろう。

昭和30年代が数多くメディアに取り上げられる中、意外にスポットの当たっていない40年代は、現在に比較的近く、生活の様変わりも想像しやすいことから、区民または杉並の居住歴のある方々から昭和40年代の生活を記憶するため原稿と写真を一般公募し、原則として原文のまま(部分的に編集したのものもあります)紹介していく。

## 昭和40年代のできごと

東京オリンピックの翌年に幕を開け、高度経済成長の波に乗って、暮らしが急激に便利になった昭和40年代。一方で、環境問題や交通事故など、現在につながる課題が浮かび上がったのも、この頃だった。人々がビートルズやパンダに夢中になり、テレビが白黒からカラーに変わったこの時代、オイルショックによる買占め騒動を経て、昭和50年代にバトンタッチするまでを、世の中と杉並に起きた出来事で振り返る。

—執筆・内藤じゅん 掲載・2011年9月16日—

## 昭和39年(1964年)

東海道新幹線が開業

(東京—新大阪)

東京オリンピック開催



銀座に「みゆき族」現れる。カルビー「かっぱえびせん」発売。「お座敷小唄」「愛と死をみつめて」がヒット。

### 杉並区役所前を、聖火ランナーが走る

杉並区を走る交通の要、環状七号線は、そもそも東京オリンピックの整備道路だったのを、ご存知だろうか。日本中が東京五輪に沸いたこの年、杉並区もオリンピック歓迎ムードに包まれた。開幕前日の10月9日には、多くの区民が見守る中、区内から公募で選ばれた92人のランナーが、青梅街道沿い7.5キロを聖火リレーでつなぎ、区役所前を通過した。

【杉並のできごと】青梅街道を区民ランナーが聖火リレー

## 昭和40年(1965年)

「いざなぎ景気」の始まり

ソ連、人類史上初の

宇宙遊泳に成功



エレキギターブーム。プリンス自動車(現:日産)「スカイラインGT」発売。

「夏の思い出」「さよならはダンスの後に」がヒット。

### 三種の神器から「3C」へ

昭和30年代に庶民が憧れた「三種の神器」と言えば、白黒テレビ・洗濯機・冷蔵庫。昭和40年代になると、より高価な耐久消費財、カラーテレビ(Color television)、自家用車(Car)、クーラー(Cooler)が「3C」と呼ばれて普及し始めた。この中で、最初に普及したのはカラーテレビ。車とクーラーが家庭にやってくるのは、まだ先となる。

【杉並のできごと】阿佐ヶ谷中学校で完全給食がスタート

## 昭和41年(1966年)

日本の総人口1億人突破

ビートルズ来日



フォークソングが流行。日産「ダットサンサニー」トヨタ「カローラ」発売。

「君といつまでも」「バラが咲いた」がヒット。

### 郵便ポストが丸型から角型に

昭和50年代以降に生まれた人は、丸くて、ひさしのついた鉄製ポストを見たことがないかもしれない。この年、ポストの形が円筒形から現在の角型に変わった。また、ダイヤル式の「大型赤電話」が区内30ヶ所に設置され、夜間も公衆電話が使えるようになった。

【杉並のできごと】中央線(中野駅～荻窪駅間)の高架複々線完成

昭和42年(1967年)

自動車保有台数

1,000万台突破

四日市ぜんそく患者が

大気汚染訴訟を起こす



ミニスカート、若者の長髪が流行。グループサウンズが大人気。タカラ「リカちゃん人形」発売。

「世界は二人のために」「ブルーシャトー」がヒット

#### 団塊の世代のウェディングブーム「杉並会館」大盛況

この年、当時としてはめずらしい公立の結婚式場、「杉並会館」が上荻三丁目に完成した。ちょうど団塊の世代が結婚年齢を迎え始めた時期で、昭和43年度の結婚式利用回数は、なんと延べ1,229回。安くて豪華な式ができると評判を呼び、区民をはじめ多くの利用者があった。この式場は、現在、「杉並会館マツヤサロン」に引き継がれ、一日一組限定のプライベートな披露宴が魅力の施設に生まれ変わっている。

【杉並のできごと】都立上井草総合運動場オープン。荻窪に区立の結婚式場「杉並会館」が完成

昭和43年(1968年)

東大学生ら安田講堂占拠

東京府中で三億円事件



「昭和元禄」の語が流行る。川端康成がノーベル文学賞受賞。日本初のレトルト食品、大塚食品工業「ボンカレー」発売。

「恋の季節」「星影のワルツ」がヒット。

#### フォーク・ロックの街、高円寺

1970年代、高円寺は、吉祥寺・国分寺と並んで「三寺」と呼ばれ、フォーク・ロックの街として有名になっていく。当時、高円寺には、吉田拓郎や南こうせつなどのミュージシャンが住んでいた。

その頃、音楽青年たちの拠点となったのが、この年、高円寺にオープンしたロック喫茶「ムービン」だ。当時の写真を見ると、八坪程度の店内に長髪・ジーンズの若者たちが所狭しと集まり、フォーク全盛期の雰囲気伝わってくる。

【杉並のできごと】高円寺にロック喫茶「ムービン」がオープン

昭和44年(1969年)

東名高速道路全面開通

(東京一名古屋)

NHK FMステレオ放送が

スタート



ボーリングブーム。「O h! モーレッツ」が流行語に。「8時だヨ! 全員集合」、アニメ「サザエさん」スタート。「黒猫のタンゴ」「港町ブルース」がヒット。

#### 7年間かかった地名変更新しい住居表示が完了

昭和44年、杉並区では新しい住居表示が完了した。それまで明治時代の符号を住所としていた旧町名制度を変更するのは容易なことではなく、昭和38年の着手から、7年間もかかった。区内では、「八成」「成宗」「馬橋」などの地名が消え、新しく「桃井」「梅里」「今川」などの地名が生まれたが、旧地名の一部は、今でも学校や交番の名前として残っている。

【杉並のできごと】中央線 荻窪駅～三鷹駅間の高架複々線完成。区内全域の新しい住居表示が完了

昭和45年(1970年)

大阪万国博覧会開催

日航機「よど号」ハイジャック事件



ウーマンリブ時代。男性化粧品「マンダム」発売。雑誌「a n - a n」創刊。「走れコタロー」「圭子の夢は夜ひらく」がヒット。

#### 光化学スモッグで中杉通りのケヤキも被害にあう

昭和45年7月、環七通りの近くにある東京立正高校で、「目が痛い」「のどが痛い」「息が苦しい」と訴える女子高校生が、校庭でバタバタと倒れた。わが国初の光化学スモッグ被害だ。

工場や自動車の排気ガスの増加が原因の光化学スモッグは、杉並区内で猛威を振るい、この年は、夏真っ盛りの青葉の時期だというのに、中杉通りのケヤキの葉が落ちてしまった。

【杉並のできごと】東京立正高校でわが国初の光化学スモッグ発生

昭和46年(1971年)

ニクソンショック

NHK総合テレビが全番組

カラー化を実施



マクドナルド、ミスタードーナツの日本1号店がオープン。日清食品「カップヌードル」発売。

「わたしの城下町」「よこはま・たそがれ」「また逢う日まで」がヒット。

#### 「サザエさん」でも取り上げられた杉並清掃工場建設問題

高度経済成長の影で、増え続けた東京のゴミ。すでにゴミの最終処分場を抱えていた江東区が、新たな清掃工場建設計画に住民が反対していた杉並区のゴミの搬入を阻止するなど、深刻な社会問題となっていた。この問題は、当時、朝日新聞で連載されていた「サザエさん」にも、デパートの食堂で相席した2人の女性が、お互いが杉並区民と江東区民だと知った途端にゴミ論争を始めるという内容で取り上げられた。(出典:朝日新聞昭和48年5月26日付東京版社会面)昭和57年には、高井戸に杉並清掃工場が完成し周辺整備が進んだが、建設をめぐっては昭和40年代に「東京ゴミ戦争」と呼ばれた紛争があったことを忘れてはならないだろう。

【杉並のできごと】東京都知事が「東京ゴミ戦争」宣言

昭和47年(1972年)  
札幌冬季オリンピック  
沖縄返還



日中国交正常化でパンダブーム。元・日本兵の横井庄一さんがグアムから帰還。総合情報誌「ぴあ」創刊。カラーテレビ普及率が白黒テレビを上回る。「喝采」「せんせい」「傘がない」がヒット

#### 子どもを交通事故から守るために作られた杉並児童交通公園

この年、杉並児童交通公園がオープン。安心して駆け回れる原っぱや空き地が減り、交通事故が増える中、子どもたちが交通安全を遊びながら学べる施設として設立された。現在でも地元の子どもたちで賑う杉並児童交通公園。親子二代で交通安全を学んだという区民も多いのではないだろうか。

【杉並のできごと】 杉並児童交通公園がオープン

昭和48年(1973年)  
第一次オイルショック  
魚のPCB汚染が  
社会問題になる



読売巨人軍V9達成。「ちよっとだけよ」が流行語に

国電にシルバースーツ登場。「学生街の喫茶店」「ひなげしの花」「神田川」がヒット

#### オイルショックでも杉並区民は落ち着いていた?

昭和48年の暮れ、日本はオイルショックによる混乱に包まれた。全国で主婦がトイレトペーパーや洗剤を買う列を作り、灯油不足も深刻だった。平成23年の東日本大震災発生時にも社会問題となった「買いだめ」だが、この当時の全国調査でも、実に42%がトイレトペーパーの買いだめをしたと回答している(国民生活白書)。一方、杉並区が行った行政実態調査で、何らかの「買いだめをした」と答えた区民は19%。杉並の主婦はオイルショック時も、意外と冷静だったのかも知れない。

【杉並のできごと】塚山遺跡の調査が開始される。区の木(杉・アケボノスギ・サザンカ)選定

昭和49年(1974年)  
オイルショックによる物価高騰  
戦後初のマイナス成長



超能力ブーム。「金脈」が流行語に

セブンイレブン第1号店が江東区にオープン

「ひと夏の経験」「襟裳岬」がヒット

#### 食卓を直撃した物価高騰

オイルショックの影響で、杉並区内でも物価が2割上昇。特に、砂糖や食用油など食料品の値上がりは著しかった。さらに、魚の汚染や食品添加物の危険性が相次いで問題になり、家庭では毎日の買い物に頭を悩ませていた。杉並区は対策として、区内の魚屋さんと協力し、焼津のカツオ、新潟のイカ、長崎のアジなどを産地から直送販売した。翌年には、お肉屋さんとも協力して市場より2~3割安い肉を区民に提供した。

【杉並区のできごと】区が物価対策で魚の産直をはじめる。南伊豆養護学園開設

昭和45年(1970年)  
大阪万国博覧会開催  
日航機「よど号」ハイジャック事件



ウーマンリブ時代。男性化粧品「マンダム」発売。雑誌「a n - a n」創刊。「走れコタロー」「圭子の夢は夜ひらく」がヒット。

#### 光化学スモッグで中杉通りのケヤキも被害にあう

昭和45年7月、環七通りの近くにある東京立正高校で、「目が痛い」「のどが痛い」「息が苦しい」と訴える女子高校生が、校庭でバタバタと倒れた。わが国初の光化学スモッグ被害だ。

工場や自動車の排気ガスの増加が原因の光化学スモッグは、杉並区内で猛威を振るい、この年は、夏真っ盛りの青葉の時期だというのに、中杉通りのケヤキの葉が落ちてしまった。

【杉並のできごと】東京立正高校でわが国初の光化学スモッグ発生

昭和50年(1975年)  
山陽新幹線、博多まで開通  
ベトナム戦争終結



核家族化、大都市ドーナツ化する。ソニー「家庭用ベータ方式ビデオ」発売。「シクラメンのかほり」「港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ」がヒット。

【杉並のできごと】 杉並区の人口がピークに(53万4,872人)。杉並区長公選制になる

【出典・参考文献】 『杉並区政史』(杉並区発行) 『すぎなみ区政60年の歩み』(杉並区発行) 『杉並区広報 縮刷版(1~4)』(杉並区発行) 「高円寺フォーク伝説」(杉並区立郷土博物館発行) 「レンズの記憶—杉並、あの時、あの場所—」(杉並区立郷土博物館発行) 『東京ゴミ戦争 高井戸住民の記録』(財団法人杉並正用記念財団発行) 『朝日新聞縮刷版(1973年5月1日号)』(朝日新聞社発行) 『中央線の詩 下』朝日新聞東京総局(出社社) 『ハヤリもの50年 昭和32年—平成18年』榎原淑子(こう書房)